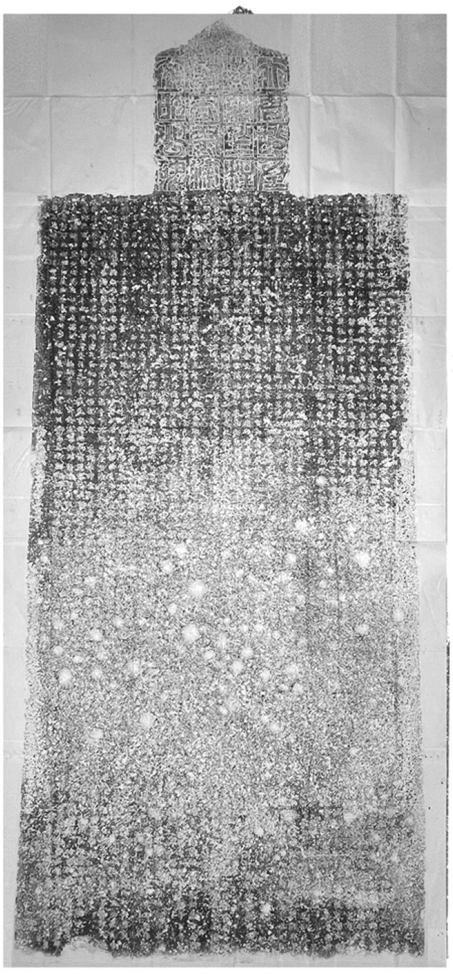


主図版「房玄齢碑」

「落ち穂拾い記」㉝
「房玄齢碑」（652年以前）



図①「房玄齢碑・新拓整本」



図②「碑の下端部分」



図③書風比較　右「房玄齢碑・集字」　左「雁塔聖教序碑・部分」

唐の太宗皇帝を支えた重臣・房玄齢（579～648）の事績を記した碑である。「房玄齢碑」は、初唐の三大家の一人・褚遂良の書とされ、その優れた書風は、古くから「雁塔聖教序碑」と並び称せられてきた。近年、この碑が言及されることはそれほど多くない。小生もこの碑の拓本を、これまでに数件手にしてきたが、雁塔聖教序碑に比べると非常に少ない。その原因は、古くに碑文全体が激しく損傷されて、多くの文字が失われ、その書風を見がたいことによるのであろう。以前に西安の友人から近年に取られた整拓本を譲りうけた。珍しいことに碑の破損の激しい文字が確認できない部分まで丁寧に拓され、碑額も付されている（図①）。おそらく調査用に拓されたものの一部ではなかろうか。房玄齢碑のこのような拓を見たのは、初めてであった。この拓本から推測するに、碑の高さは、約3.2メートル、碑の幅は、下部が約1.3、上部が約1,2メートルである。碑額があり、篆書で16字が刻されている。碑文は35行、各行81字と諸書に記されるが、縦横にほぼ3センチに細い罫線が刻されている。新拓本から実測すると82字と想定される。大型の碑文であるが、文字が残るのは上半部で、上端から下に20字目まで、約700字ほどが刻された部分が古くから拓されてきた。旧拓とこの新拓と比較すると文字の保存状態は、ほぼ同じである。丁寧な精拓本であるので、比較的文字の鮮明に残る部分を右の主図版として原寸大で示した。図版①に示した全体の新整拓本を丁寧にみると、20数字目あたりから下方は、ほぼ完全に碑面が破壊されている。文字らしき面影は、ほぼみることができない。しかし台座に近い下端には、明確に「外」字が拓出されている部分もある（図②）。丁寧に見れば、更に判明する文字があるであろう。この碑の書風は、古くから「雁塔聖教序碑」と比較され、同系の書風とされているが、「雁塔聖教序碑」よりも前に建てられている。破損の激しい中から字画の好く保存された文字を集字し、雁塔聖教序碑の一部との比較図版を制作した（図③）。両碑の書風は微妙に異なり、雁塔聖教序碑の方が、一段と伸びやかに感じられるのではなかろうか。次回は、房玄齢碑の幻の宋拓本を紹介します。

伊藤滋（書斎名・木鶏室）

書のひろば

理事長　下谷洋子

書道芸術院秋季展
併催「書道芸術院現代詩文書展」

本院の主要行事である秋季展が10月1日から4日まで、セントラルミュージアム銀座で開催されました。併催の現代詩文書展は、今年は現代詩文書部の審査会員候補の中から選抜された次世代の24人が作品を披露しました。

今回のセントラルミュージアム銀座は、従来の秋季展の展示方法を変え、本院の財団役員に参与、2月の院展で選抜された作家はこれまでと同じですが、漢字・かな・現代詩文書・前衛書の各部の審査会員から新世代4人を選考し、大作を発表していただきました。その関係もあって、慣例の審査会員候補による秋季展公募も、展示は秋季菊花賞のみとしましたので、会場の雰囲気はかなり変わりました。

今年も、公募以外の出品者は下見会を経ての出品です。11月23日に80周年を迎える本院ですので、秋季展の行事も見直した結果が今回展となりました。

3日は、秋季展公募の表彰式及び大作出品者を中心に研究会が行われ、終了後は会場をコートヤード・マリオット銀座東武ホテルに移して懇親会を行いました。ご来賓には毎日新聞社から田中義郎様、毎日書道会は三岡昭博専務理事、80回展表彰式・祝賀会で司会を担当する岡崎弥生様をお迎えし、和気藹々と和やかな宴となりました。

アートサロン毎日は、3日の午前中、会場にて出品者と小竹・田村・広瀬理事、辻元顧問に私を中心に、研究会を行いました。関係者は本院のみでしたので、出品者も話しやすかったと思います。

今回の経験を基に、80回展での力作を期待します。

（秋季展の詳細は6頁に掲載。現代詩文書展は来月号に特集します。）



表彰式



懇親会での受賞者紹介

令和8年度高野山書道協会常務理事会開催

10月14日(水)高野山東京別院の奥書院にて、高野山書道協会の常務理事会が開催されました。

協議事項は次の通りです。

⊙議長選出
⊙第60回高野山競書大会経過報告
⊙第61回(令和9年度)高野山競書大会開催について
　1.各日程の件
　2.審査委員長選出の件
　3.審査副委員長、大会運営委員選出の件
　4.当番審査員選出の件
⊙その他
・来年度大会案内の件
・新参事候補の件
・出品料、受賞者宿泊費の件
・その他

書道芸術院創立80周年記念ベルギー展開催

本院が、記念展ごとに開催してきた海外展ですが、今年は80周年記念として10月22日～11月6日まで、ベルギーの日本大使館にて開催されました。

開催にあたり、訪欧団を結成し、10月21日～25日まで本院より26名が渡欧しました。

22日午前中陳列

午後　開幕式、オープニングパーティー、席上揮毫

23日午前・午後　ワークショップ



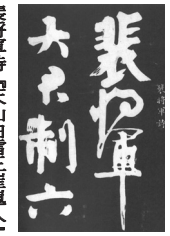
大使館職員の補助



常務理事の作品の前での集合写真

漢字基礎基本講座(26)

種谷萬城



裴将軍詩『裴将軍大君制六』



裴将軍詩『天山白雪正崔嵬入』



裴将軍詩の臨書『裴将軍大君制六』



裴将軍詩の臨書『天山白雪正崔嵬入』



裴将軍詩の倣書『剛健雄壮千変万化』

破体書　裴将軍詩

唐の顔真卿〈709―785年〉は、字を清臣。顔魯公、顔平原とも呼ばれる。その書は、虞世南、欧陽詢、褚遂良の初唐の三大家による王羲之の流れを引いた在来の書に新生面を切り開いた革新書派の祖として高い地位が与えられている。肉太な線と、胴にふくらみを持たせた文字の構成により醸し出される重厚美は、以前の書に例のない堂々たる風貌を見せる。

『裴将軍詩』は、顔真卿の書を集めて刻した法帖・『忠義堂帖』の中に刻入されており、顔真卿の書と伝えられる。楷書、行書、草書を織り交ぜ、篆書の筆法を加味する点画もある『破体書』の名品。唐玄宗皇帝の時代に活躍した武将・裴旻の戦功を讃えた五言古詩一首で、文字の大小、長短、肥痩、斜正の変化に富み、筆力の漲る雄壮な趣きの書。日本へは明治初年に楊守敬が将来した『忠義堂帖』で伝わり日下部鳴鶴、巌谷一六、中村不折等の臨書が残されている。

異様、奇抜を演出した、剛健雄壮、千変万化で魅力的な作品を臨書と倣書で味わいましょう。

○臨書にあたっては

・太めの筆で、墨は濃墨を用いる。
・起筆、送筆、収筆に独特の弾力を生かした筆遣いがされる。
・潤渇、太細の変化。重厚で、粘りのある線質の表現。
・字形は向勢で、懐ろを広く取り、ゆったりとした結構に作る。

※ユーチューブ『筆のサロン』に臨書と倣書の関連動画を配信しました。是非参考にして下さい。QRコードでアクセスできます。

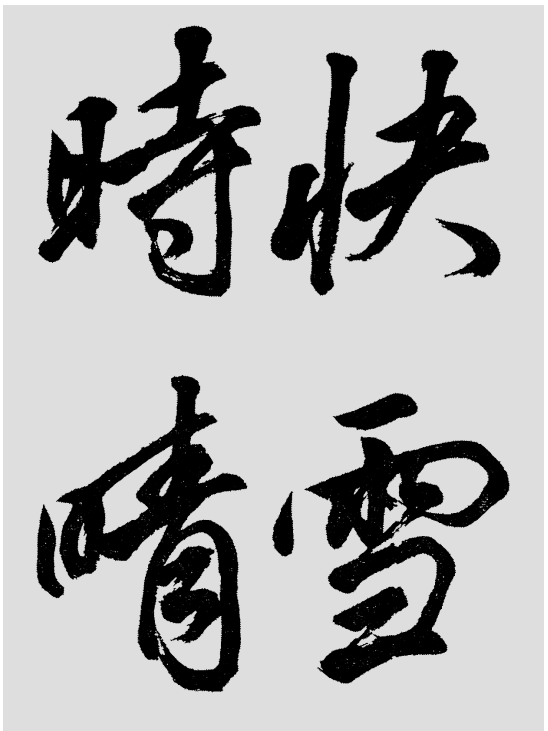
筆のサロン
QRコード

――基礎基本講座――

競書出品基礎基本講座(臨時(5))

編集部

『参考手本・随意部(行書)』33号(S36年12月)より



揮毫者・川崎梅村

・筆は兼毫(300円程度のもの)。先寄せの純羊毛筆ではない。
・その筆を全部おろして、さばいておく。糊気を取ること。
・筆の相当上の方を持って、指先を動かして軽快に運ぶ。つまり、指の屈伸と、手首の回転を使う。こうすると、自然な運筆と線の変化が可能になる。上下運動だけでは平凡な線になる。
・筆に細かい律動を時折入れながら、次の線、次の線へと書いてゆく。
・曲がるところなどはきゅっと指先を引き締め、ちょっと止める風にして筆を立てる。そうしないとずるずるの線になってしまう。

書道芸術院
令和の群像（2026）



谷口青龍（京都）

「師からのかけ声」

小学生の頃の習字の時間はとても苦手な時間でした。というのも、小さい頃から字が下手だったからだと思います。母は字が上手くなるようにと願っていました。

たまたまだったのか、故小伏竹村先生・小扇先生の娘さんと結婚し、その後、小学校以来20年も筆を持ったことがない私が、たまたま行った小扇先生の教室で、字を習うようになりました。それからというもの、竹扇会書展、玄遠社書展、書道芸術院展、毎日書道展など、あらゆる書展に、ど素人の私が出品するという、今から振り返ると無謀な状況だったと思います。

書道を始めて2年目の頃に、臨書することは書道の基本ということを言われ、竹村先生の講座で習うことになったのですが、臨書の宿題を出しても出しても合格がもらえず、苦労したことが思い出されます。

私は、職業柄（土木の技術職）左右対称が基本という固定観念を持っていたことから、字を書く時も、その基本からなかなか抜けられず、苦労してきました。

ある時、漢数字の「十」を書くのに、「縦書きの線を少し右へずらすと字が面白くなるよ」と竹村先生が言ってくださったのを思い出します。その後の作品作りでは、「もう少し線をずらせ」、「そこから早く書け」、「同じような線になっているぞ」など、数多くの貴重なかけ声を受けたこと、大変ありがたいことと思っています。

こうしたかけ声が、竹村先生がおられなくなった今、私の作品作りで、たぶんここではこういうかけ声をされるのであろうと思うようになりました。線をずらすことで動きが出る、早く書くことでスピード感が出る、同じような太さの線は書かずに太い線があれば細い線も入れる、縦書きの線の両側に点を書くときは左を遠くに書けば右は近くに書く、傾きも同じにならないように書く、などこれまで受けたかけ声を意識するようになりました。今は、小扇先生の御指導を受け、作品作りをしています。

こうして、書道を32年も続けてこられました。字が上手くなることを願っていた母は喜んでいると思います。これも、竹村先生・小扇先生の温かい御指導があり、竹扇会の先生方、玄遠社の先生方、書道芸術院の先生方のお蔭であると感じています。

最後に、書道を始めるきっかけが嫁さん（充っちゃん）に出会えたことだと感謝するとともに、これからも私の一応援団として励ましてもらえればありがたく思います。



2025大阪・関西万博白と黒の伝統「萬」　谷口青龍書

本年度の「新審査会員紹介」は本号で終了となります。

第80回記念

書道芸術院展

Shodo Geijutsu-In Japanese Calligraphy Exhibition

— 併催　第78回 全国学生書道展 —

第80回記念展を開催いたします。
漢字－創作・臨書、かな－創作・臨書、現代詩文書、篆刻・刻字、前衛書の総合展です。ご高覧くださいますようご案内申し上げます。

と　き：2027. 2. 5(金)－11(木・祝)
9：30～17：30（11日(木・祝)は14時閉室）
※入場は30分前まで

ところ：上野公園 東京都美術館
ロビー階 第３・４展示室　１階 第３・４展示室
２階 第２・３・４展示室

＜作品解説会＞　と　き　2027. 2. 7(日)11：00～
2.11(木・祝)10：30～
ところ　東京都美術館　ロビー階

＜席上揮毫会＞　と　き　2027. 2. 7(日)10：00～
ところ　東京都美術館　展示室

SHO JAPAN
私たちは「日本の書道文化」のユネスコ無形文化遺産登録を応援しています。

主催
公益財団法人 書道芸術院
〒101 0031　東京都千代田区東神田１16 7
東神田プラザビル３階
TEL. 03 3862 1954

後援
文化庁
公益社団法人 全日本書道連盟
毎日新聞社
一般財団法人 毎日書道会

令和8年度 新審査会員作品 ‖ 猪原 美風（漢）





猪原美風
（大分）

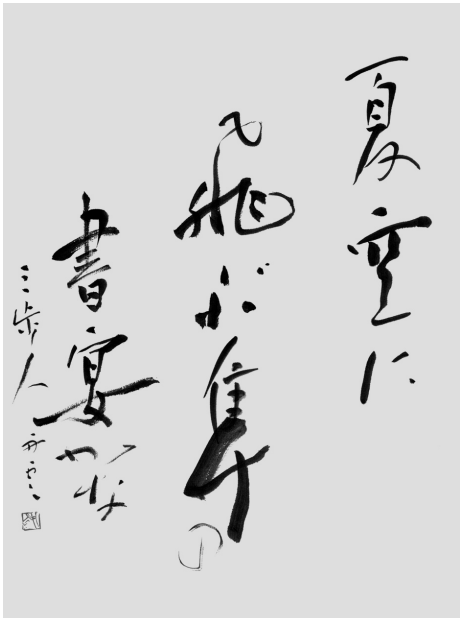
「身心如花」

「身心如花」は、師匠・牧泰濤先生の自作四字熟語。楽しくご指導して頂く中で、折にふれ目にしてきた素敵な言葉。私も心に置き「時を知り、感謝し、心和ませる花のように」を心掛けて日々を暮らし、書作にも繋げていけたらと思います。（美風）

書道芸術院・新役員紹介

理事　現代詩文書部　東京総局　広瀬舟雲

高校書道の授業で、辻元大雲先生と初めてめぐり逢い、教えを受けた時から早や50年が経ちました。大学に入学した年から師の推薦により種谷扇舟先生門下に加えて頂くことになり、現代詩文書や中国書道史の世界にますます夢中になっていきました。書写書道教育の分野では久米・宮澤・長野先生からご指導頂いたお蔭で、今に役立つ新しい知見を見つけることができるようになり、研究することが楽しみとなっております。研究も実務もどんなことも無理と思わず、きっとよい方法が…、と考えるようにしています。理事長ご指導のもと、常に前向きに考え実行したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



「夏空に飛ぶ隼」
夏空に飛ぶ隼の書宴かな
（三歩人舟雲　自作）

〈作品自解〉書宴とは、7月に開催した連立個展「次世代をになう隼たち」のこと。この展覧会の成功を願い全力を尽くした私たちのことを詠む。自由に意気揚々と飛ぶ姿を飛・隼の文字に込めた。

書道芸術院秋季展

書道芸術院役員・審査会員選抜・審査会員候補公募

併催　「書道芸術院現代詩文書展」
会期　令和8年10月1日(木)～10月4日(日)
会場　セントラルミュージアム銀座
　　アートサロン毎日

秋季展実行委員長
千葉蒼玄

書道芸術院秋季展がセントラルミュージアム銀座で開催された。財団役員、審査会員の中から選抜された作家に加え、今年から大作推薦者4名が出品し、作家たちの気力あふれる作品から会場には熱気が感じられた。

今回から展示形式も一新され、大作推薦作家4名による展示を中心とした構成となった。漢字の谷田熾箋氏は、ゆったりと流れるような線質によって独自の世界を表現。藤村昌子氏は、章法を生かしながら小字と中字を組み合わせたかな作品を展開した。茂木絢水氏は緊密で充実した構成を見せ、荒谷明美氏は紙面から飛び出すかのような迫力ある表現で見る者を圧倒した。それぞれが個性を十分に発揮し、鑑賞者に強い感動を与えるとともに、作家自身にとっても次の段階への飛躍につながる展示となったに違いない。

土曜日には表彰式と研究会が開催され、作家それぞれが作品に込めた思いや制作に向かう姿勢など、普段は聞くことのできない話を伺うことができた。部門による制作態度や表現への取り組みの違いを知ることができたのは、5部門を有する書道芸術院ならではの貴重な機会であった。

また、アートサロン毎日では、現代詩文書部審査会員候補選抜による展覧会も開催された。伸びやかで若々しい作品が輝きを放ち、充実した作品群となっていた。一方で中字の作品が多く、大字ならではの力強く迫力ある作品がさらに加われば、より幅のある展示になったのではないかと感じた。

秋季展公募入賞者

◇秋季菊花賞（7名）

漢字	木下	玲窓
	日比	康貴
かな	大﨑友里絵	
現詩	道庭	白昇
	芳賀	志峻
前衛	小山	三樂
	道塚	紫音

◇秋季俊英賞（28名）

漢字	新井	赫扇
	北口	松星
	佐藤	武美
	中嶋佐緒里	
	松田	綾香
	山本	龍堂
かな	井上	智美
	小暮	真紀
現詩	秋山	雄心
	笹木	蒼風
	三浦	淡虹
	相澤	敦子
	安藤	京子
	佐々木藍水	
	高橋	奎媛
加藤	雅芳	
小泉	潤	
寺内	宏山	
平倉	明楓	
三浦	英樹	
岡本	凉子	
石澤	青仙	
藤井	花香	
吉田	紫風	
藍澤	白珧	
石田	香	
関谷	明美	
八重樫裕香		



会場風景

2026年　書道芸術院秋季展公募出品集計

部	出品点数	出品人数	秋季菊花賞	秋季俊英賞	選外
漢　字	60	60	2	11	47
か　な	16	16	1	3	12
現代詩文書	35	35	2	6	27
篆刻・刻字	0	0	0	0	0
前衛書	45	45	2	8	35
合　計	156	156	7	28	121

書道芸術院秋季展

会期　令和8年10月1日(木)～10月4日(日)
会場　セントラルミュージアム銀座（紙パルプ会館）



〈尾崎紅葉の句〉

顧問　辻元大雲

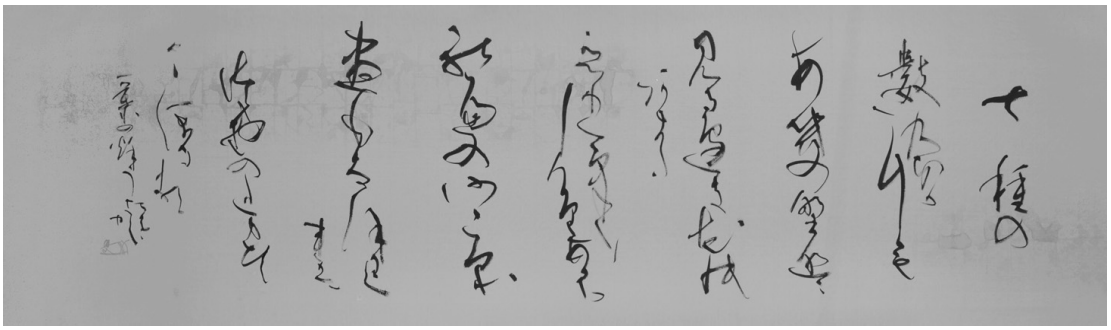
135×35㎝



〈鐵石心〉

顧問　後藤大峰

50×34.5㎝



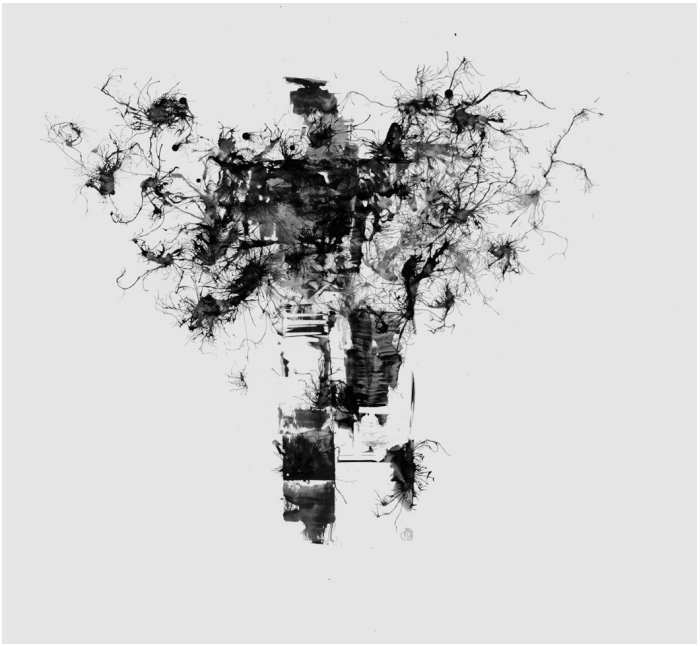
〈野花〉

理事長　下谷洋子　　180×53㎝



〈神楽〉　常務理事　小竹石雲

161×45㎝



〈記憶の残光〉　常務理事　千葉蒼玄　125×134㎝

大作《谷田熾箋》

〈秋詞〉



167×53㎝×2

大作《茂木絢水》

〈茨木のり子の詩より〉



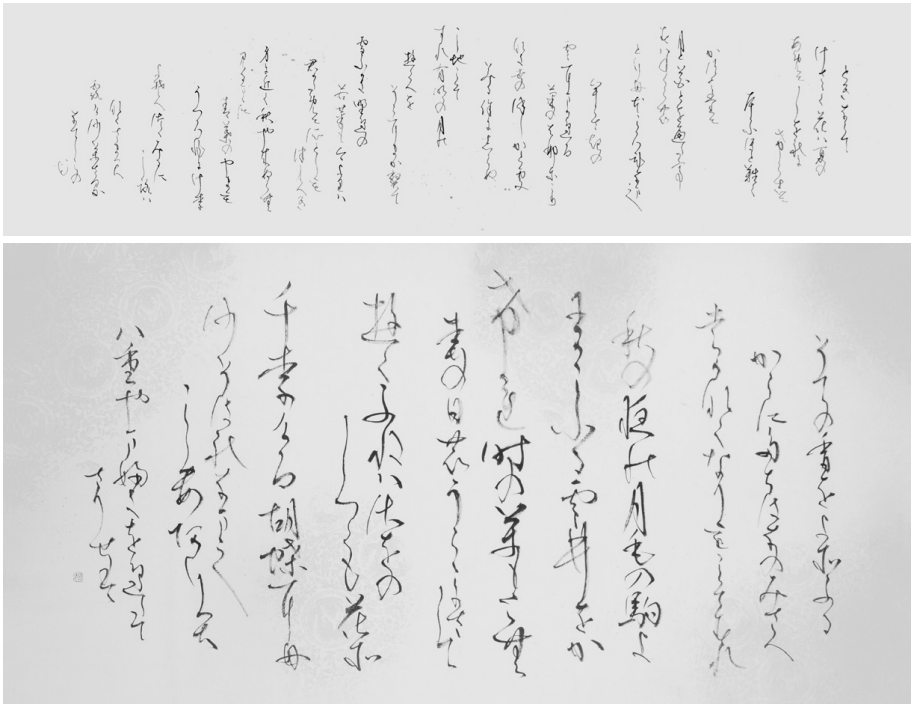
180×120㎝

大作　《荒　谷　明　美》



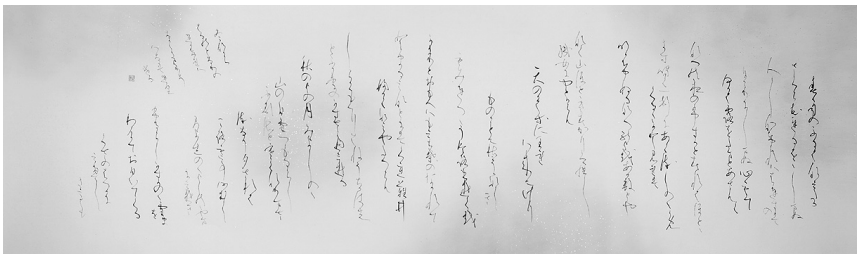
〈 獨 〉　　120×180㎝

大作　《藤　村　昌　子》

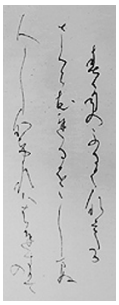


〈撫子の花〉　　35×135㎝・70×135㎝

審査会員候補
秋季菊花賞



部分拡大



〈春さめの〉　大 﨑 友里絵　52×　180㎝

〈飛瀑〉



小 山 三 樂

151×73㎝

〈遠〉



木 下 玲 窓

120×90㎝



〈母との記憶〉　道 庭 白 昇　60×　182㎝

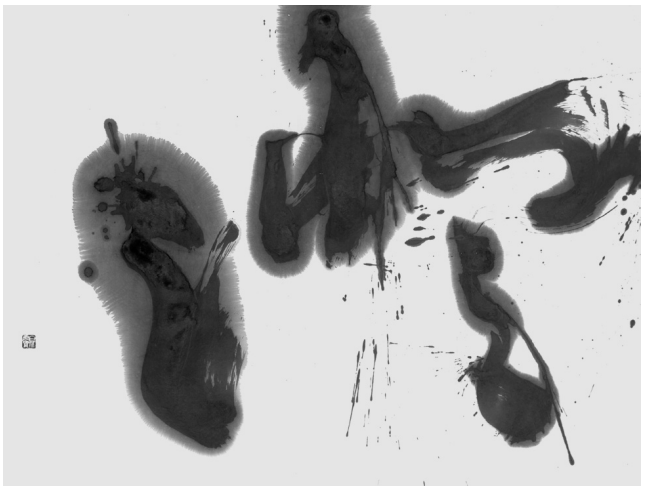
〈夏の物語〉



芳賀志峻

175×56㎝

〈澄〉



日比康貴

88×118㎝

〈成長し〉



道塚紫音

180×60㎝

俊英賞

〈善慶〉



加藤雅芳

150×69cm

〈奐〉



新井赫扇

121×91cm

〈朔〉



北口松星

90×120cm

〈残陽宿雨霽高浪砕沙漚〉



小泉潤

176×57cm

〈道〉

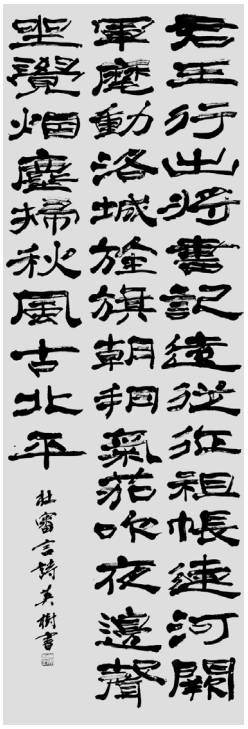


寺内宏山

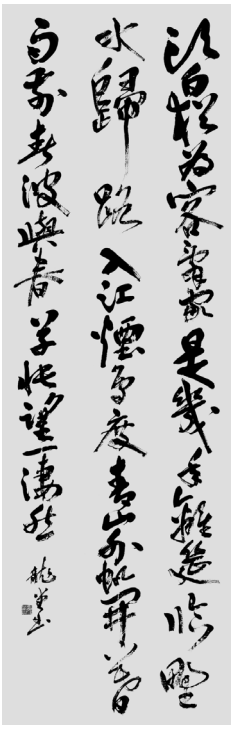
121×91cm



〈冷硯欲書先自凍　孤鐙何事獨成華〉　佐藤武美　178×58cm



〈送崔融〉　三浦英樹　174×57cm



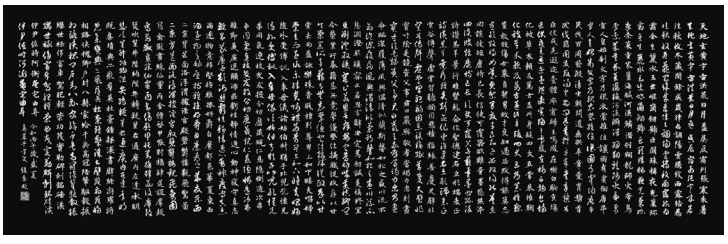
〈春江送別〉　山本龍堂　180×54cm



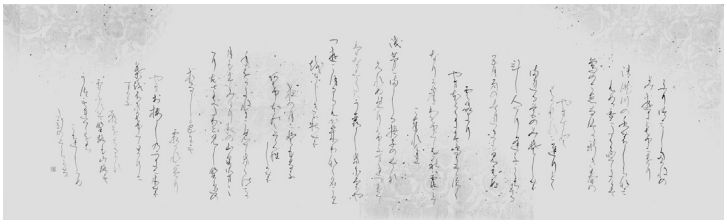
〈翠〉　中嶋佐緒里　118×87cm



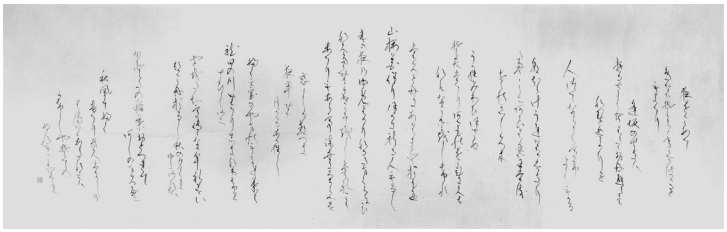
〈吟〉　平倉明楓　89×119cm



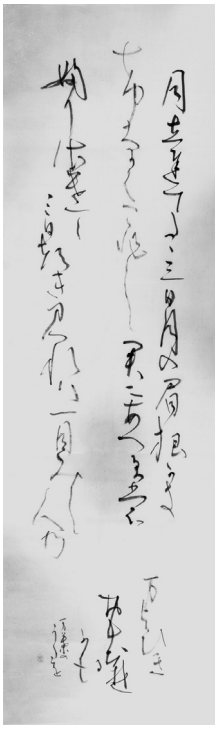
〈真草千字文〉　松田綾香　55×175cm



〈山家集〉　井上智美　53×173cm



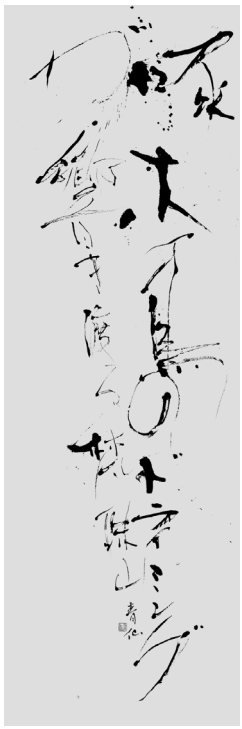
〈夜をこめて〉　小暮真紀　53×168cm



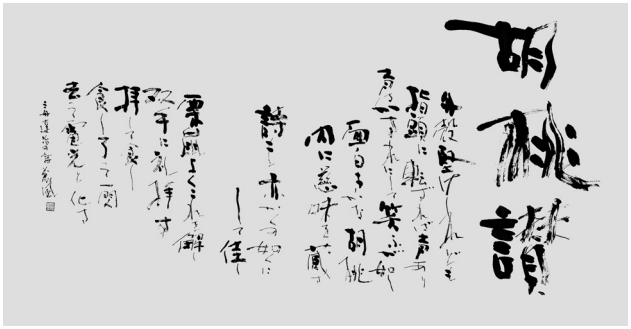
〈月立ちて〉　岡本涼子　178×53cm



〈草枕〉　秋山雄心　57×177cm



〈梵珠山〉　石澤青仙　184×60cm



〈三好達治の詩〉　笹木蒼風　70×136cm

〈舞〉



相澤敦子

177×59cm

〈北原白秋の詩〉



藤井花香

105×105cm



〈落葉〉　三浦淡虹　60×176cm

〈挑〉

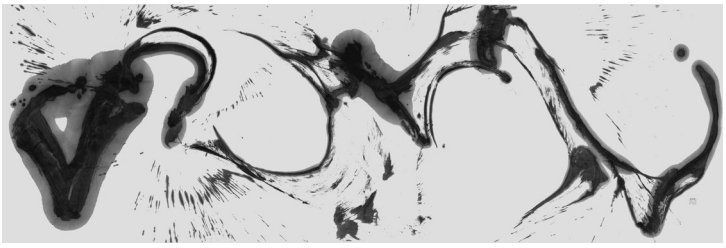


安藤京子

176×60cm



〈窓辺に〉　吉田紫風　61×181cm



〈墾く〉　藍澤白珧　60×178cm

〈喜び〉



佐々木藍水

180×60cm

〈面（おもて）〉



関谷明美

148×73cm

〈刻〉



石田香

152×69cm



〈glitch〉　高橋奎媛　58×178cm

〈信実（まこと）〉



八重樫裕香

182×61cm

古典鑑賞 498

孔子廟堂碑（虞世南）②

漢字研究部臨書課題 ＝（半紙普通判・縦使用）左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 ＝（A.大作の部―毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可　B.小品の部―半切3/4以上半切以内・全紙3/4以内も可（A・B縦横自由））当該古典の左記掲載部分以外も可。

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

〈解説〉孔子廟堂碑について本誌第32号（S36年10月）で中島邑水先生が解説している。ポイントを次に挙げてみる（表現は適宜改変）。

・全体から受ける風格、一点一画に込められた心遣い、おおらかな呼吸、懐ろを広く構えている姿……虞世南の人柄を思い起こさせる。

・線のどこにも気張ったところがない。呼吸の詰まったところもない。

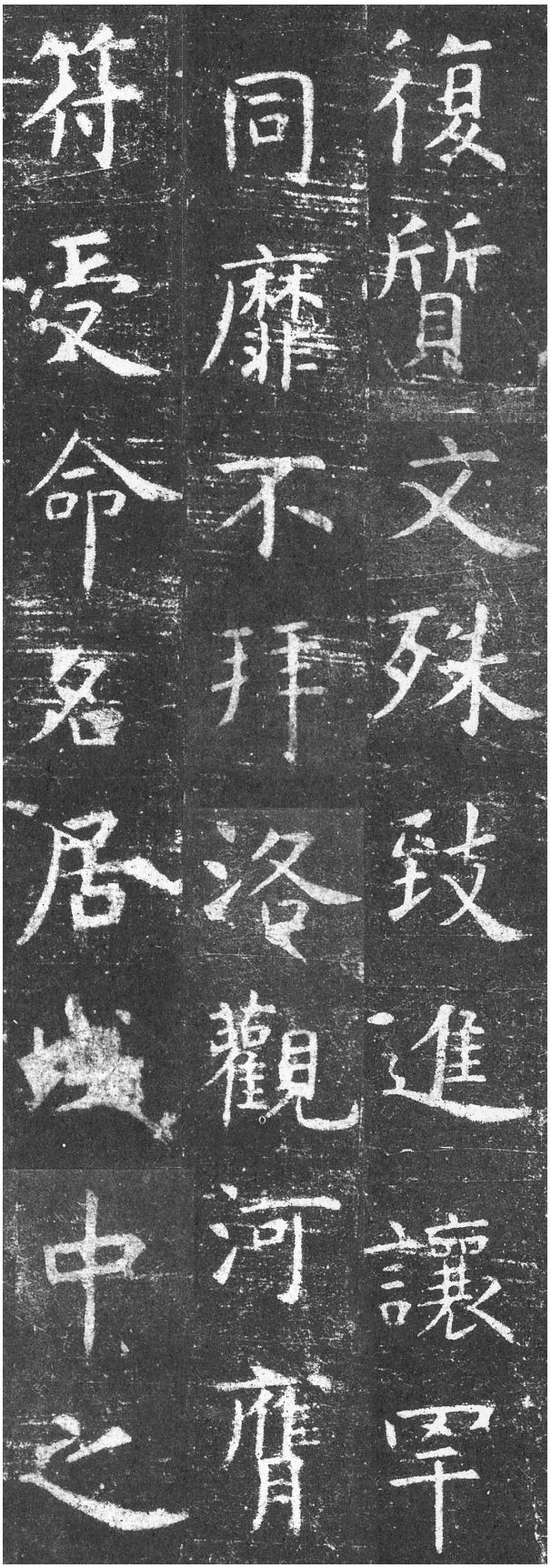
・細かい用筆の先々に心を深く配って書かれている。それでいて、内に盤石の重みを秘めている。

・起筆は側筆（穂先が線の外側にあらわれる用筆法）にならないこと。じっくり穂先を包むことが大切。収筆も起筆に習っている。

・外見は柔らかだが、内に張り詰めた強さを持っている。

（編集部）

「域」の骨書き↑



復質文殊致。進讓罕／同。靡不拜洛觀河。膺／符受命。名居域中之

（三井記念美術館蔵）

※掲載図版原寸、ただし行立てについては変更しています

古筆鑑賞

272

藍紙本万葉集（伝 藤原公任筆）②

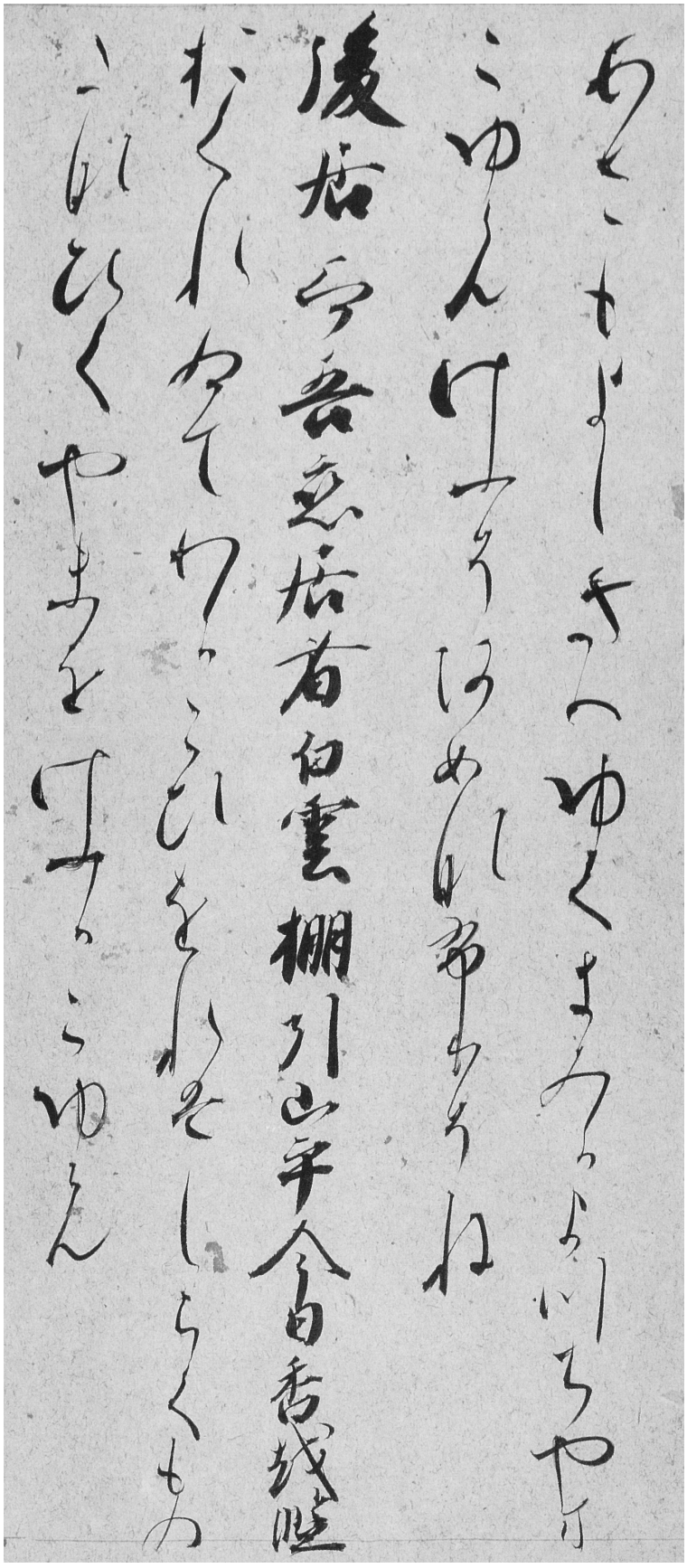
〈よみ〉

あさもよしきへゆくきみがまつちやま
こゆらむけふそあめなふりそね

後居而吾恋居者白雲棚引山乎今日香越濫
おくれゐてわがこひをれば しらくもの
たなびくやまをけふかこゆらむ

〈解説〉藍紙本の筆者は藤原伊房とされている。伊房は行成を祖とする世尊寺家3代目であり、和様の典麗優雅な書風を確立した祖父とは異なり、男性的で雄渾な書風を展開した。躍動的で力感あふれる筆力と張りのある筆勢は王朝期のかなとしては極めて異彩を放っている。

この古筆の料紙は藍紙に銀箔を散らした典雅なもので天地には横に界線が薄墨で引かれている。書写の際の目安にしたものであろう。前号と本号の図版は巻9（零巻）の前半から採ったが、後半に進むにつれ速度が増し、字形も乱れてゆく。伊房はこの1本をわずか4日で書き上げており、その速筆ぶりが想像される。しかし、臨書の際はじっくりと書いてみることが肝要だろう。（編集部）



京都国立博物館蔵　※掲載図版原寸

かな研究部臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

A. 大作の部＝毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可
B. 小品の部＝半切1/3以上、半切以内（縦横自由）
〈いずれも左記の掲載以外も可。〉

特別研究部臨書課題

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

※古筆は原寸（以上も可）で臨書しましょう。

漢字規定　初段以上　**【12月10日締めきり】**　用紙　半紙普通判

小竹石雲選書



筆精妙入神　よみ（筆は精にして妙（みょう）は神（しん）に入る）

書体＝自由

習い方解説　(2)

小竹石雲

筆精妙入神　〔李白〕
（筆は精にして妙（みょう）は神（しん）に入る）

筆跡はきわめて精緻で、入神の素晴らしさがある。

王羲之の書を称えて詠じた句を2種類の書風で書いてみた。晋代の小楷を参考にしながら、整斉な字形のなかに風趣に富んだ線質を狙った。焦ることなく、と言っても遅渋では線が濁る。そして格調の高さを求めながら書くことは至難ではあるが挑戦してほしい。

参考例では上下動を強調した運筆で書いてみた。水平運動に上下運動を加味すると、線・形にも変化が出るが、ほどよく融合させないと格調が下がるので心して書いてほしい。表現の深さの探求を楽しんで多書しよう。

〈参考〉



漢字規定　秀級以下　【12月10日締めきり】　用紙　半紙普通判

半田藤扇選書



道法自然　よみ（道は自然を法とす）

書体＝楷書に限る

習い方解説 (2)

半田藤扇

道法自然　〔老子〕
（道は自然を法とす）

道は自然を法とす。
道はありのままの自然の姿や、法則に従って動いている。

今月は、「雁塔聖教序」褚法を取り入れてみました。

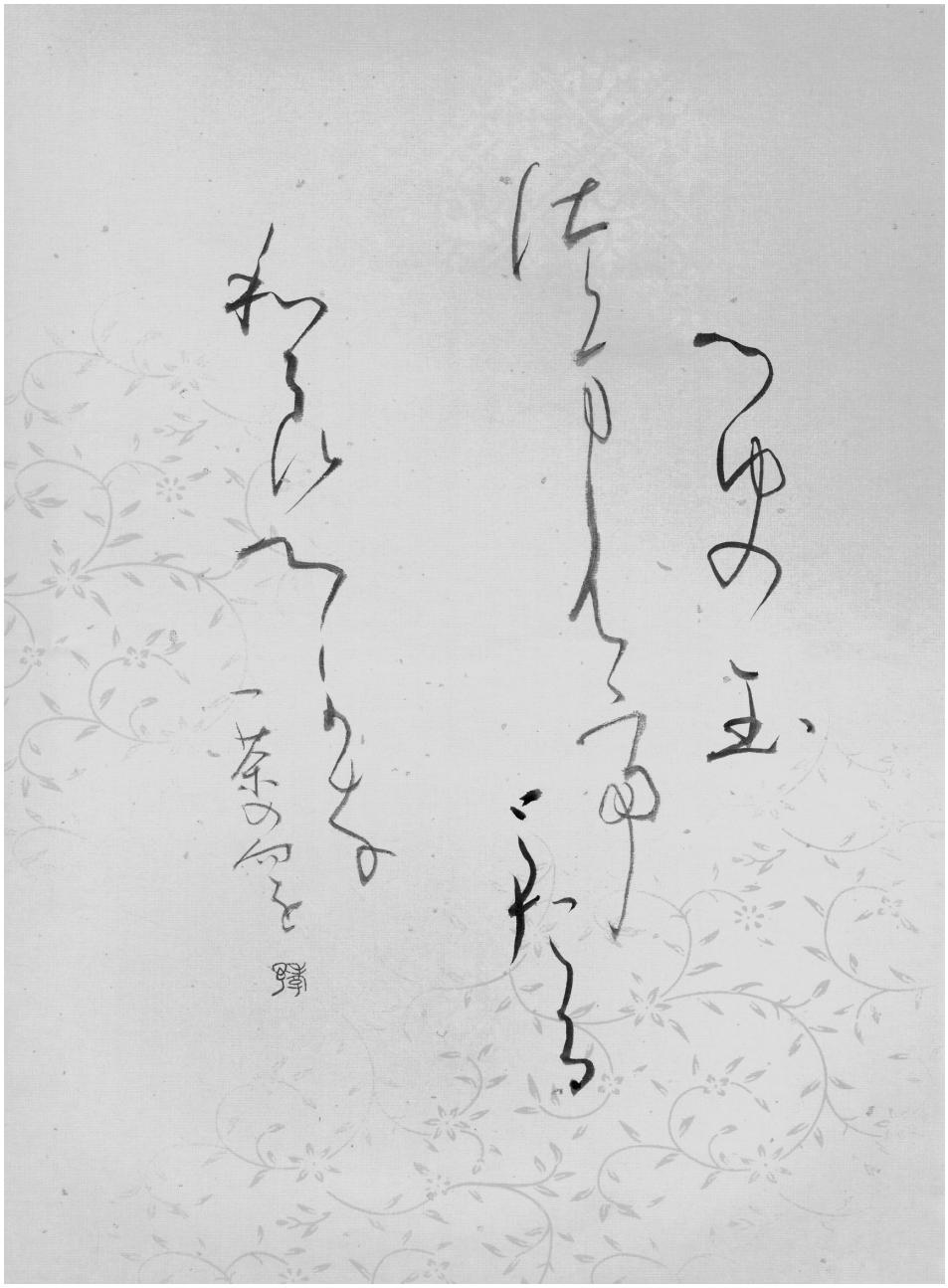
細身でありながら、強さのある線質で、楷書ではあるが、流れるような趣きのある、行書と融合した軽快な書風です。そして筆先の微妙な変化にも注意し、単調な線ではなく、躍動感を与えるような筆勢に心配りしてみませんか。

書き進んでいくと、点画の連続や流麗な筆遣いなど行書の要素がたくさん含まれています。また、筆もいろいろと変えてみると、線の変化が生じ、新しい発見があるのではないでしょうか。挑戦してみて下さい。

※5センチほど（穂先）の羊毛筆を使用。

かな規定　初段以上　【12月10日締めきり】　用紙　半紙普通判（料紙可）

小島孝予選書



よみ方　露(川ゆ)の玉つ(徒)ま(万)んで(帝)見(三)たるわ(和)ら(良)べ(部)か(可)な

創作

＊料紙は半紙版(33.0×24.5㎝)を使用しましょう。半懐紙は上記のサイズに切って下さい。

習い方解説　(2)

小島孝予

露(つゆ)の玉(たま)つまんで見(み)たるわらべかな　〔小林一茶〕

草木の葉から落ちずに光る朝露の玉を、子どもが指先でつまんでみようとしている無心で可愛らしい姿。

小林一茶の俳句を散らし書きで表現しました。

雫の形をイメージして、3行目「みたる」を中心(底辺)に、2行目は下部が右へ流れないように「帝」を置き、4行目は下部が自然に右へ流れるように「可奈」を置きました。

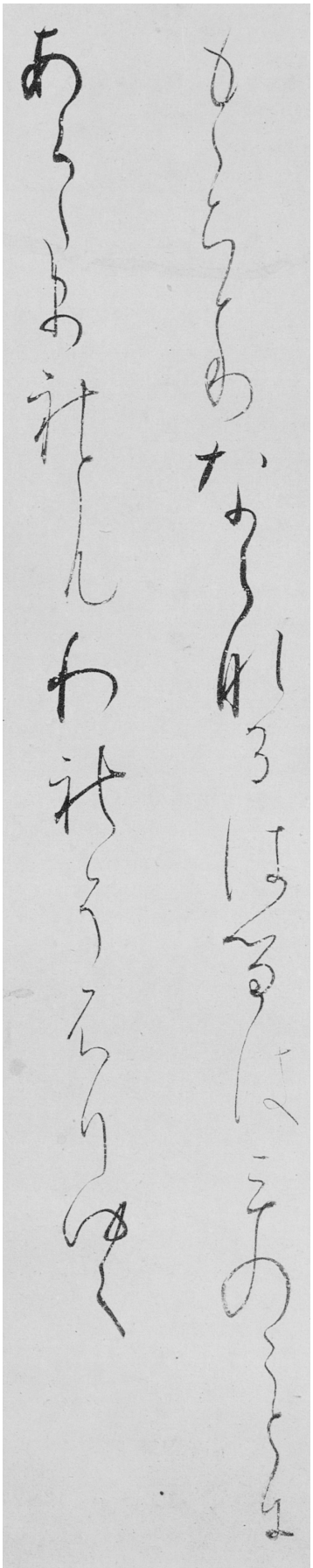
また、句意にある子どもの可愛いらしさを表現したいと思い、「露」は「つゆ」に置き替え、全体的に柔らかな流れが伝わるよう文字を選びました。

俳句は文字数が少ないので全体の景色を表現することが難しいですが、墨の濃淡と行間を工夫し、立体的な作品に仕上げていきましょう。

墨継ぎは「み」です。

かな規定　秀級以下　【12月10日締めきり】　用紙　半紙タテ1/2（**料紙可**）（たて32センチ・よこ12センチ）

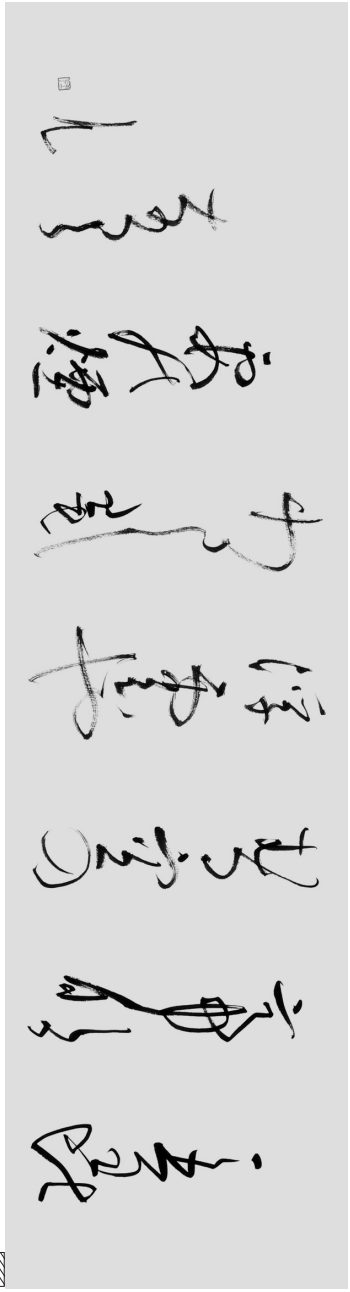
掲載写真の和歌を**臨書**する。**部分臨書**も可。〈注〉署名は「○○臨」。　高野切第一種（掲載写真原寸）



よみ方　もゝちどりなくなるはるはものごとに
あらたまれどもわれぞふりゆく

歌意　さまざまな種類の多くの鳥がさえずり鳴く春は、あらゆるものにつけて新しくなっているけれど、この私だけが年老いて古びてゆくのだなあ。

かな条幅規定　【12月10日締めきり】　用紙　小画仙紙半切（**料紙可**）



よみ方　恋(こ)ひ(悲)わ(王)び(比)て(帝)な(那)が(可)むる(留)空の浮雲や
わが(可)した(多)も(毛)え(要)の(能)けぶり(煙)な(奈)る(留)らむ(无)

佐藤希雲選書

創作

※ヨコ形式に限る

出品券貼付位置

習い方解説　(2)

佐藤希雲

恋(こ)ひわびてながむる空(そら)の浮雲(うきくも)や
わがしたもえのけぶりなるらむ
〔周防内侍「金葉集」〕

今月は横形式です。行頭はだんだんと上がっていって、中央から少しずつ下げていきます。5行目下の「し」を右に流し、「多毛」を添わせます。ここで墨継ぎをすると潤渇のコントラストが出ます。「多毛」以下4行で2つ目の山の形を作ってみました。

漢字条幅規定　初段以上【12月10日締めきり】　用紙　小画仙紙半切



千葉蒼玄選書

磨而不磷　〔論語〕
（磨すれども磷ろがず）

書体＝ヨコ形式に限る

出品券貼付位置

漢字条幅規定　秀級以下【12月10日締めきり】　用紙　小画仙紙半切



西川翠嵐選書

紅樹青山日欲斜　〔欧陽脩〕
（紅樹青山日斜めならんと欲す）

書体＝自由

習い方解説　(2)

千葉蒼玄

堅いものは、いくら磨いても薄くならない。君子は、悪い環境にいてもそれに染まることはない。

横作品は、扁額をはじめ、遠くから仰ぎ見られることを前提として制作されることが多い。筆勢は伸びやかに、字形は端正に整え、全体にゆったりとした気韻を備えることが肝要である。横への広がりを十分に生かし、字と字との呼応、余白との調和をよく考え、全体に安定した構成を心掛けたい。横作品ならではの雄渾さと雅趣を兼ね備えた表現を。

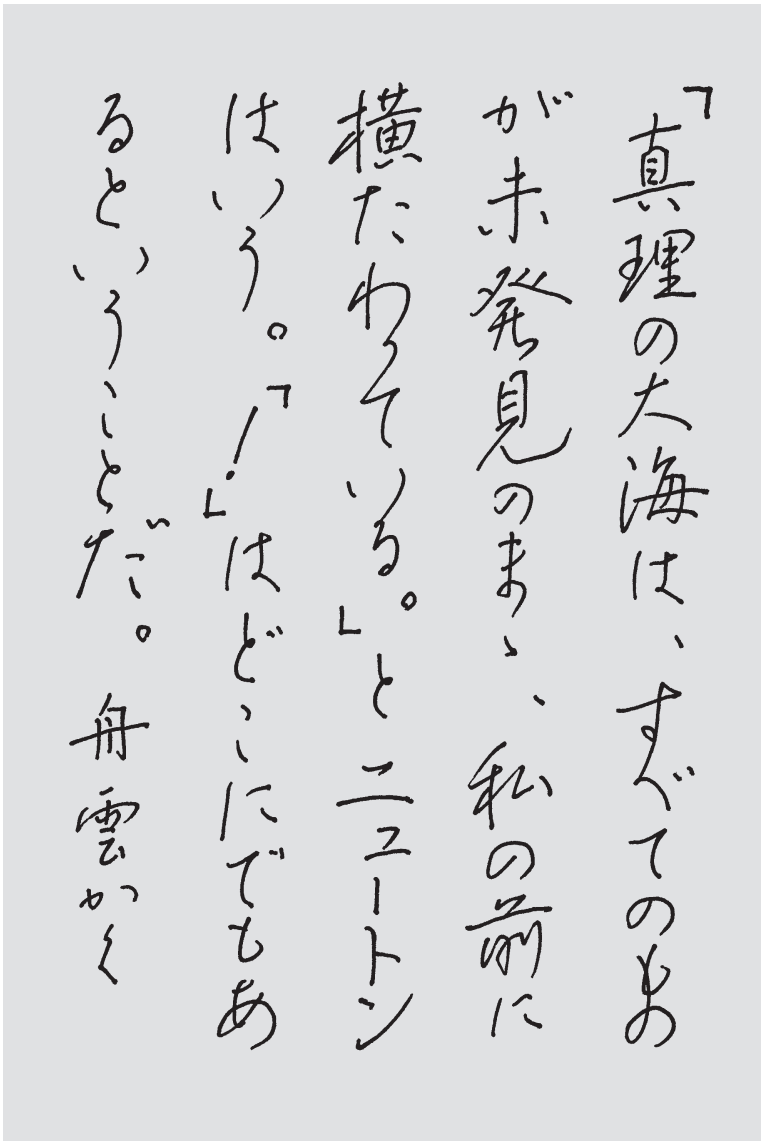
習い方解説　(2)

西川翠嵐

今月も行書で七言句です。あかい花をつけた木々、青々とした山々を夕日が照らしています。すがすがしい景色をイメージしながら筆をとって下さい。糸へんの書き方にも色々あるでしょう。皆さんがどれをもってくるか一つ一つが作品づくりです。手持ちの書体字典を活用して下さい。もちろん全体の流れも意識して…。

ペン字規定【12月10日締めきり】

広瀬舟雲選書



書体＝自由

◇用紙　ハガキ大（14.8×10㎝）の白紙を使用
◇黒インクのペンを使用（ボールペン・フエルトペン可）

ご注意!!
用紙の大きさにばらつきが見られます。
用紙サイズ（ハガキ大14.8×10㎝）を守って下さい。

習い方解説 (2)

広瀬舟雲

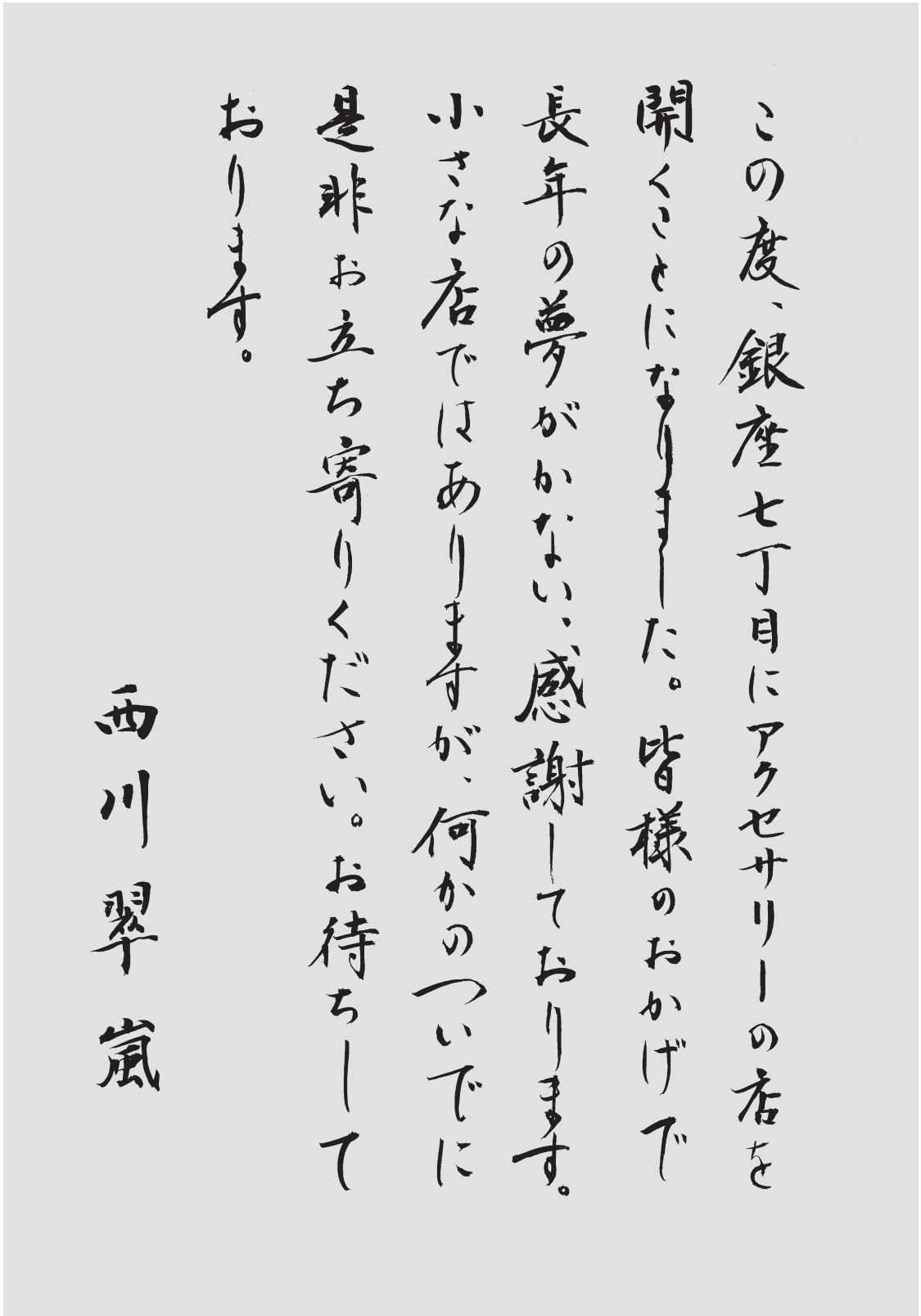
本文はこの課題のためにニュートンのことばを引用し作成しました。

アイザック・ニュートン（1642〜1727）は、万有引力の法則を発見したイギリスの偉大な科学者です。文中の「！」はビックリマークともいわれる感嘆符。驚きや感動することはどこにでもあるという意味です。

今回は太さ0.7㎜の太めのボールペンを使用してみました。さまざまなボールペンが販売されていますが、ペン先のボールがなめらかに動き、インクぼてがないものを探して使用するとよい作品が書けます。

「真理の大海は、すべてのものが未発見のまゝ、私の前に横たわっている。」とニュートンはいう。「！」はどこにでもあるということだ。〇〇かく

※今回は署名の下に「かく」と書いてください。



この度、銀座七丁目にアクセサリーの店を／開くことになりました。皆様のおかげで／長年の夢がかない、感謝しております。／小さな店ではありますが、何かのついでに／是非お立ち寄りください。お待ちして／おります。／氏名

書体＝自由

西川翠嵐書

（掲載手本85％に縮小。原寸にするには117％拡大）

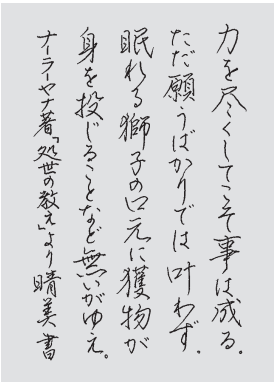
◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用　署名は各自の氏名（号）を
◇用紙は普通版半紙横½（24.5×16.5㎝）　B５版コピー用紙（26.0×18.1㎝）も可
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

今月のホープ作品・各部総評　NO.785

ペン字部　師範　黒岩　晴美

暢達したしなやかで巧みな運筆が魅力。その絶妙な線質が静かな流れと立体感を醸し出した。

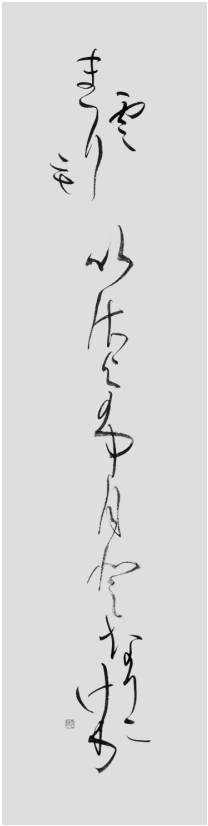
◎ペン字部総評　行書はリズムが大事。一字の中でも遅速のリズムによって線質が変化し立体的になります。（孝予評）



かな条幅部　師範　早部　朗

柔らかな線質で上品に全体をまとめている。「ふ月と」のかすれの表情が快いリズムを生んだ秀作。

◎かな条幅部総評　冒頭の「雲間」を大きく書きすぎている作が多かった。手本の字を見る際には空間の取り方を観察したい。（希雲評）



漢字条幅部　師範　豊嶋　勝

余白を充分にとり、疎密の変化を計算した巧妙な構成の作。独自のリズム感に魅せられる。

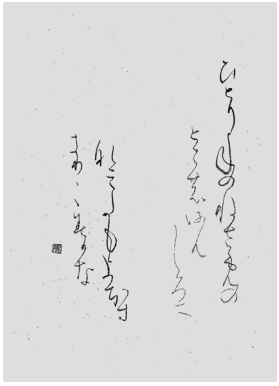
◎漢字条幅部総評　上級「薫」字に誤字多見。校字を着実に草稿を作って下さい。自身で字書を引く習慣をつけて下さい。（萬城評）



かな部　師範　八木橋紀舟

手本に忠実に仕上がりかつふくよかな線が全体に柔らかな余韻を漂わせた品位の高い作品。

◎かな部総評　概ね誤字も少なく良い作品が多く楽しく拝見しました。下位の方は線が極端に細く字粒も小さく残念に思います。（雪枝評）



現代詩文書部　特選　藤井　龍仙

伊藤左千夫の歌。大字の潤渇の表情豊かな線と、小字の巧みな筆さばきが印象的な作。運筆光る。

◎現代詩文書部総評　書作する作品に合った勢いとリズム、濃淡の変化等自分の感性大事。（掃雪評）



漢字部　師範　中島　藤邑

切れ味の良い行書作。運筆のリズムが軽やかで、白の空間に輝きがある。もう一歩濃淡の変化を。

◎漢字部総評　6文字の表現は4文字と違い変化を表現しやすい反面、字の大きさが不揃いになりがちだ。章法の工夫を。（蒼玄評）



前衛書部　特選　早坂　聖朋

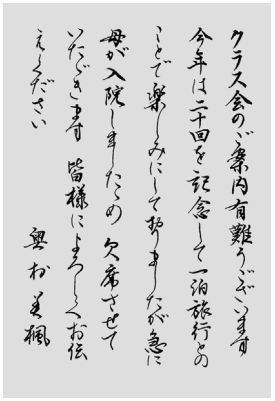
細線の集散・流動の変化が相まって空間を切っている。しなやかな線の流れが魅力的な明るい作。

◎前衛書部総評　独創性に走りすぎると神髄が見えなくなります。気をつけて制作を。（蓮紅評）



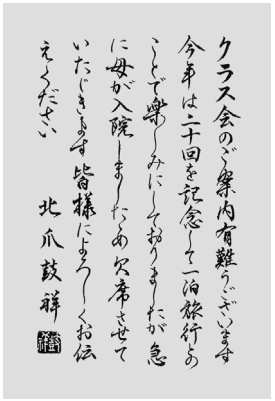
実用書優秀作品

選評　佐藤莱扇


クラス会のご案内有難うございます
今年は二十回を記念して一泊旅行とのことで楽しみにしておりましたが急に母が入院しましたため欠席させていただきます　皆様によろしくお伝えください　奥村美楓

特選　奥村美楓

清々しく流れの美しい作品です。日頃の鍛錬のたまものです。


クラス会のご案内有難うございます
今年は二十回を記念して一泊旅行とのことで楽しみにしておりましたが急に母が入院しましたため欠席させていただきます　皆様によろしくお伝えください　北爪鼓祥

特選　北爪鼓祥

筆致強く安定した書きぶりです。落款も見事に調和しています。

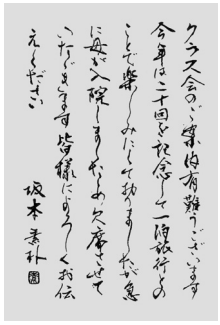
◎実用書部総評

字間・行間など紙面構成の工夫が見られる作品が多かった。漢字とかなの調和が取れた作品は流れが美しく見応えがあります。

（莱扇評）

今月の注目作

坂本素朴


クラス会のご案内有難うございます
今年は二十回を記念して一泊旅行とのことで楽しみにしておりましたが急に母が入院しましたため欠席させていただきます　皆様によろしくお伝えください　坂本素朴

自然で語りかけるような流れの作品です。

特選										
大雲	奥村 美楓	こだ	北爪 鼓祥	八街	井ノ口春峰	深大	多胡三千代	もく	本郷 谷恵	
秀作（60音順）										
泰香	及川 明美	高真	木暮 美紀	素朴	坂本 素朴	大雲	鷲山 美梢	愛子	佐藤 あこ	
常盤	水津 恵風	琇韻	林 美奈子	黎明	松田 綾香	宗苑	茂木 絢水			
佳作（60音順）										
竹美	秋 龍華	士気	五十嵐茉穂	椿翠	稲葉 美咲	五月	小野 裕美	澄春	加瀬 夏峰	祥華	佐藤トモ子
入選（60音順）										
紅瑤	芳蘭	高木百合子	四枝	丹	竹清	汀琴	高木 規芳	上泉	中村シゲ子	美枝
もく	青木 藤漣	春汀	上利 啓子	洞書	千葉 安藤 叙孝	一心	石森 博子	幸扇	井上 洋硯	玉川	今永 咲子	高真	岩上 郁子
澄春	植田 紅雨	たか	浮須 康彰	清月	牛久保雅子	青蓮	大町 菜園	橙園	鍵 紫苑	ここ	加藤 翠陽	華仙	菊地 恵水
祥華	喜多志津子												
若葉	工藤 山房	書游	水茎	佐川 紅輝	岡山 三竿	公彦	上里 宮前	清美	華仙 山本 美楓				
水茎	清水 蘭舟	佐藤 華園	深大	清水 良子	千葉 玉沢 幸子	宮子	趙 弘子	福山	徳永 裕子	吉岡	土井 孝子	紅瑤	中嶋 澤
八街	新村 翠芳	柳賢	二上 香柳	椿翠	平山かつ子	弘内	宏美	一閃	澄春	深澤	佳月	深田	幽春
干潟	高木 竹寿	高橋 賢雲	幕張	笨	田玉 哲子	睦月	宗苑	書泉	堀 佳泉				

（選外364名氏名略）

前衛書部（特選）　　現代詩文書部（特選）



選評　山崎掃雪

草鈴　大小の大胆な構成絶妙
雅邦　表情豊かな線余白輝く
成山　自在に筆が動き楽しい
花香　潤筆と細線との調和見事
雄一　揺るぎない線と構成力抜群
美梢　確かな運筆動きしなやか
渓翠　気力充実した運筆の妙
和香　淡墨の滲みが美しい作品
杏邑　思い切った構成圧倒的
真理　細線の表現、白が輝く
一美　淡墨と余白の妙冴える
素朴　レトロな情景生かす表現
彩香　穏やかで心に残る作品
春蘭　ダイナミックな鳶鮮やか
英樹　言葉を印象づける線見事
朱香　淡墨と線の冴えが秀逸
洋硯　練れた線と構成魅力的
泰香　水音が聞こえるような情緒
閒美　文字と配置が味わい深い
藤象　弾力のある運筆余裕あり

選評　太田蓮紅

千晶　構成が巧みで躍動感あり
珠莉　青墨美と構成美の調和あり
琢翠　運筆のリズムと潤渇美
彩紅　大胆な構成で迫力ある作
涼萩　渇筆が空間を切り迫力あり
琴翠　繊細な動線が魅力的な作
山房　茶墨の美と破筆の融合美
千鶴子　大胆な構成と遠近感の妙
四流　超濃墨による立体感を表現
初江　雄大な動線が空間を切る

今月の 特別研究部優秀作品（特選）

選評　種谷萬城　小島孝予　田村鄭雲　倉林紅瑤

小品の部

漢字（麗澤）
富田瑶翠
「菜根譚」

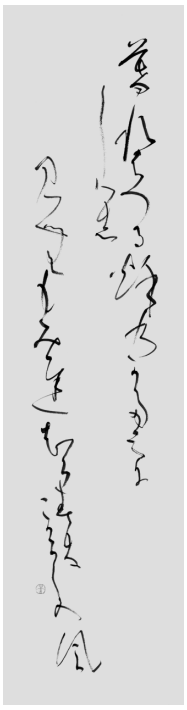


富田瑶翠書

135×35㎝

◆漢簡に習熟し、筆法、造形が安定している。温か味のある線で一貫し、心が和む。日頃の学書の成果が表われた倣書作品です。（萬城評）

かな（伊呂）
齋藤杏邑
「山家集より」



齋藤杏邑書

135×35㎝

◆豊かな筆勢と大胆な散らしによって流麗な作品となった。運筆のリズムが心地よく、生き生きとしたエネルギーを感じる作品です。（孝予評）

臨書（八街）
相楽天翔
「礼器碑」



相楽天翔臨

135×35㎝

◆引き締まった線が冴える。一点一画の表情が豊かで、礼器碑の爽快な魅力をよく捉えている。原本の良さを味わいながら再現した臨書態度を賞賛する。（萬城評）

前衛書（洞書）
安藤楊風
「『左』による」



安藤楊風書

106×35㎝

◆宿墨による広がりある滲みが印象的。長鋒筆の開閉を巧みに駆使し、動きとリズムを生み出した。余白の美しさが冴え、爽快感あふれる作となった。（紅瑤評）

〈小品の部〉

創作の部（39点）
漢字―9点　かな―3点
現代―17点　篆刻―1点
前衛―9点
臨書の部（26点）
漢字―26点　かな―0点

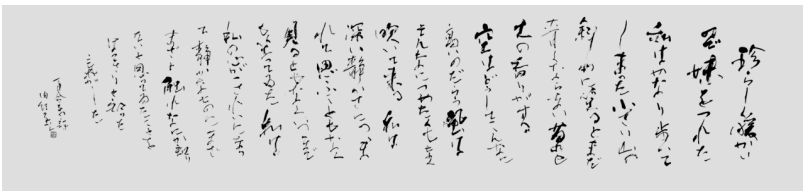
総出品点数 65点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」
麗澤　長谷川翠　水茎　高岡秀汀
「現代詩」
四枝　大友四峰　舎人　平塚汀泉　蒼風　笹木蒼風　四枝　奥川麗流　香苑　小川香燁　青蓮　伊藤有津
「前衛」
秀水　坂井初江　四枝　磯村四流　粋仙　藤井龍仙
（臨書の部）
「漢字」
天満　田畑明琴　紅瑤　原島春汀　澄春　新行内芳蘭　宗苑　茂木絢水　八街　春景　八街　三浦英樹　八街　大日向幽香　千葉　石川晴洞　大雲　江本興舟

大作の部

現代詩文書（ＡＩ） 清 水 由紀子 「静かさの中で」

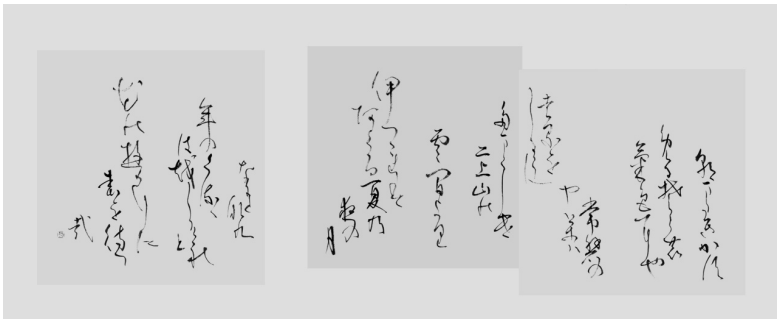


清 水 由紀子 書

41×175㎝

◆まずかなの美しさに魅了される。墨量も適切な位置に配され立体感を生む。詩文書を書く人は、かなを修練する必要があることを教えてくれる、美しい作品だ。（鄭雲評）

かな（ＡＩ） 藤 村 昌 子 「朝まだき」



藤 村 昌 子 書

70×173㎝

◆方形3枚を上手に配置した、変化に豊んだ作品。特に3枚目の散らしが躍動感にあふれ、行の揺らぎと余白が際立ち魅力的です。（孝予評）

◆大胆でエネルギッシュな筆致が紙面を躍動し、スケールの大きな作品となった。気迫に満ち、力強い左右2部構成の展開に圧倒される。（紅瑤評）

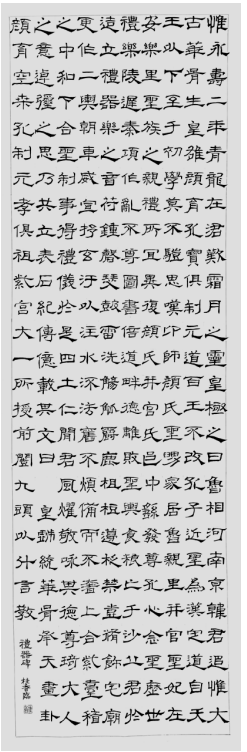
前衛書（蓮紅） 佐 藤 紅 茜 「意」



佐 藤 紅 茜 書

61×182㎝

臨 書（千葉） 佐 藤 桂 香 「礼器碑」



佐藤桂香臨

175×55㎝

◆線質、字形、章法ともに完成度の高い臨書。集中力の継続、細やかな神経を働かせた鑑賞力に敬意を表します。（萬城評）

〈大作の部〉

創作の部（38点）
漢字―6点
かな―2点
現代―9点
前衛―21点
臨書の部（18点）
漢字―17点
かな―1点

総出品点数 56点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」
翠柳 加藤 紫翠
杏苑 松永 杏苑
誠和 石崎 甘雨
「かな」
菊月 新井 恵子
「現代詩」
大雲 奥村 美楓
八戸 市川 紫泉
宗苑 臼井 真理
「前衛」
花埜 高橋 清琳
篤信 三浦 朱鳳
玄穹 平塚 汀泉
玉州 遠藤 和香
紅瑤 廣田 紫
紅瑤 川田 弘子
白珠 相内 珠莉
容洲 阿部 邑里
蒼原 佐藤 奎山
（臨書の部）
「漢字」
大雲 舟賓 恵美
素朴 坂本 素朴
大雲 宮原 香扇
紅瑤 相澤 敦子
華祥 玉渕 良章

漢字研究部（礼器碑）

選評　西川翠嵐

今月のホープ作品



林田幹子

漢字研究部　特選　林田幹子

点画の一つ一つが実にしっかりしていてその長さ、太さ、傾きは見事なまでに原本に忠実。「長」という字の1画目のふくらみ、2画目と離れている所などに注目して下さい。波磔の豊かさも十分で落款も実に素晴らしい。

◎漢字研究部総評

前回に続き漢代の隷書「礼器碑」でした。漢代隷書はこの他にも、しなやかで女性的な曹全碑、骨太で剛健な乙瑛碑、角張って肉厚な線が特徴の張遷碑等ありますが、いずれも末長く残すことを前提として建てられたものですから厳格さが求められます。その中でもこの礼器碑は力強く引き締まった細めの線が特徴です。拓本とは古いもので欠けていたりゆがんでいたりする場合もありますが、他の頁や似た文字を参考にして補って表現すると良いでしょう。



惠子　惠美　嘉玉　惠光　谷秀　香燁
惠弦　梅香　敦子　一義　藤象　菊枝
悠夏　明日　雅　澤子　玲　谷英　恵明
風　良　峰子　久恵　香柳　葵龍　みどり

審査会員の部　結果発表（出品数 漢字27点・かな14点）

選評　千葉蒼玄・見越雪枝



新行内　芳蘭



臼井　真理

〈次点・50音順〉

漢字秀逸作



山﨑皐月

温和でオーソドックスな作風に柔らかな行書がよく調和し、細部まで神経の行き届いた丁寧な作である。今後は墨色の濃淡の変化を求めたい。

（蒼玄評）

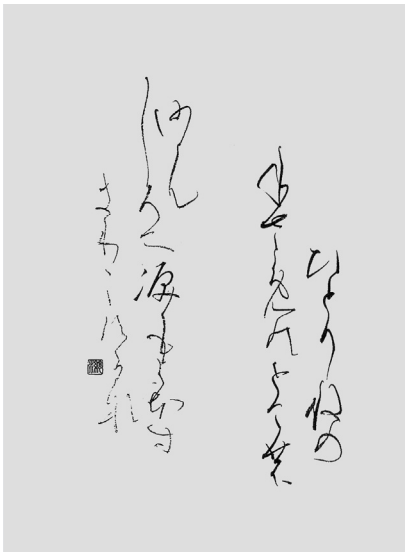


西川　藤象



大町　菜圓

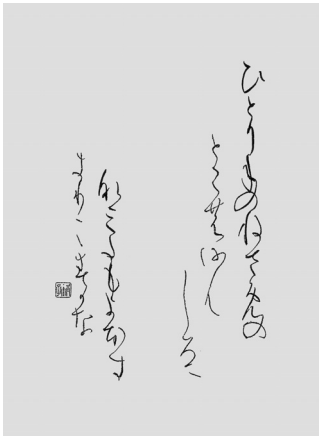
かな秀逸作



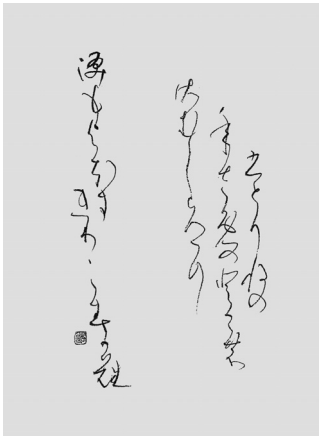
茂木絢水

紙面を制する大胆な表現力、創意工夫が窺え特に３行目と４行目の出だしが目を引く。沙ん をこの位置に置いたことで、中央の余白に動きが出た。力作！

（雪枝評）



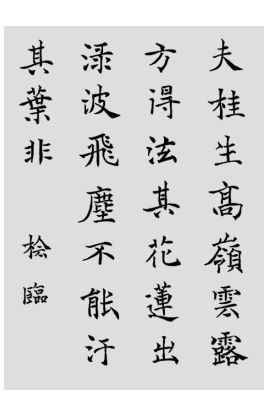
東平　絹子



齋藤　杏邑

「書道芸術」特別昇段級試験　師範合格者模範作品

漢字　第三種（楷・行・草計3枚）



楷書　雁塔聖教序臨書

房州　渡辺　桧

・雁塔の清澄感、抑揚の妙見事。豊潤で柔軟な運筆の行書に余裕を感じる。落ち着いた草書に品格あり。（石雲評）



行書　創作



草書　十七帖臨書



楷書　雁塔聖教序臨書

もく　角　真由美

・キリリとした骨力を軸に柔軟な構築性の楷書。伸びやかで健康的な行書。正確な筆致の十七帖は品格あり。（石雲評）

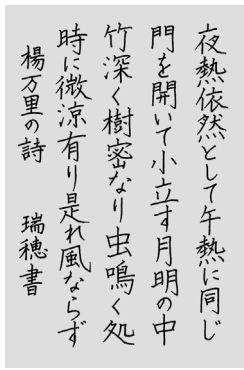


行書　創作



草書　十七帖臨書

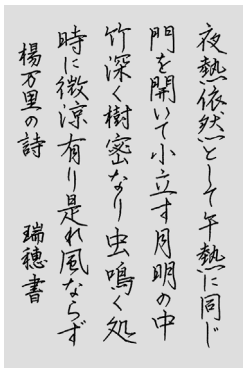
ペン字　第三種（楷・行・草計3枚）



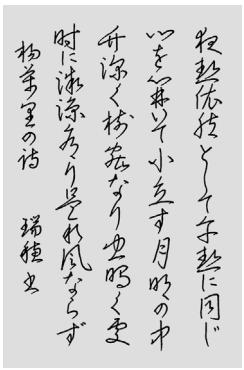
楷書

千苑　奥平瑞穂

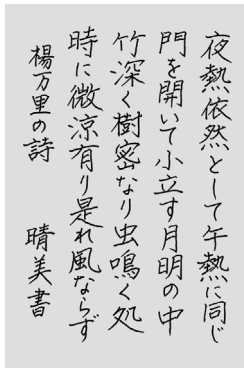
・楷、行、草ともに整然と書かれ、線に力があり堂々とした作品である。特に伸びのびとした楷書が光る。（蒼玄評）



行書



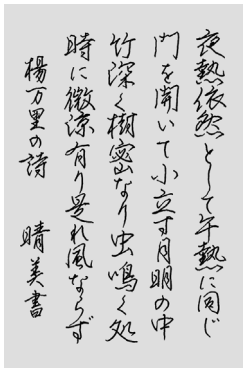
草書



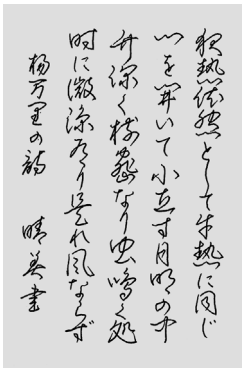
楷書

吉月　黒岩晴美

・楷書は少し柔らかさが感じられ、暖か味がある。行書と草書は流れがあり、空間をよくとらえた佳作である。（蒼玄評）



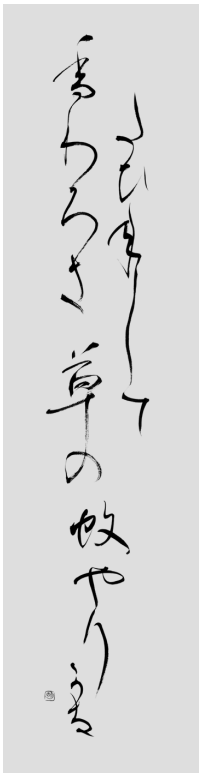
行書



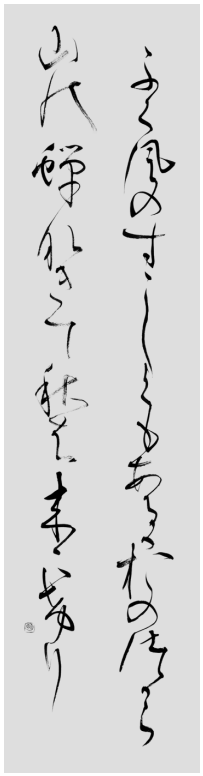
草書

かな条幅 第三種（臨書・創作・創作 計3枚）

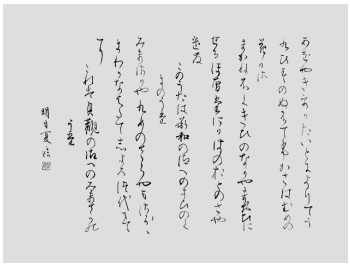
創作（俳句）



創作（和歌）



臨書（関戸本古今集）



正華　加瀬　明日夏

・3点ともに流麗さのある作品となりました。特に和歌は爽快な筆勢が作品の景色を作り出しました。（孝予評）

総評

課題の古典・古筆の研究を

審査長　下谷　洋子

秋季の特別昇級段試験の審査が終了しました。今回は漢字・かな・ペン字の3部門について第三種がありました。第三種の四段以上で原級据え置きになった方もいたかと思います。特に準師範から師範にあがるのはハードルが高く、何年もかかってようやく合格した方も多くいらっしゃいます。一方で、1回でクリアする場合もあり、その差のひとつに臨書の出来栄えがあります。

原本を観察して形を真似るのが臨書ですから、そっくりに書こうと誰しもが努力すると思います。その時に自分を助けてくれるのは、その古典・古筆についての知識です。書道史的位置づけ、特有の技法、先人の臨書例などを把握していれば、形も取りやすく、運筆に迷いもなくなります。たとえば、「雁塔」ならその入筆の方法を知らなければ、運筆のリズムも生まれず形も似て来ません。知識のあるなしで結果が変わることも珍しくないのです。

今回、残念な結果になった方はそのあたりの対策と研究を行ってください。くどいようですが、「高野切」と「関戸古今」の運筆は違います。その違いが分かれば臨書能力は格段に上がります。ひいては創作作品を書く力も上がることになります。

今回は厳しいことを書きました。知ることは決して無駄にはなりません。来年の栄冠をお祈りします。

第三種短評

漢字

師範やより高い段位への昇段試験に挑む者としては書き込みが足りなかった。もう少し書き込んでから出品してほしい。楷書と行書の細字は手首を挙げた執筆法によって筆を立てないと抑揚ある動きができない。十七帖は断筆、節筆を強調しすぎないよう留意されたい。（小竹石雲）

かな条幅

臨書は概ね忠実に学ばれていました。この調子で臨書を大切に勉強して下さい。臨書の勉強はこれからの作品作りに大きな力となっていきます。

俳句、和歌ともに立体感のない作品が目立ちました。墨色・墨量・濃淡に気をつけて奥行きのある作品作りを心がけましょう。（京　絹子）

ペン字

楷書は字形を整え、一画一画丁寧に書いた作が多かった。この調子で学書を進めていってほしい。行書は筆脈を意識し流れのある作品を心掛けたい。草書は書き慣れないためか、字形が不自然の作が多く、さらなる研鑽が必要と思う。（千葉蒼玄）

第一・二種短評

漢字

〈一種〉　力強い起筆は概ね捉えられていた。整正でしっかりした字形や線を書くには丁寧に観察を重ね学書することが大切。落款に「臨」がない作品があり注意してください。（東福青篁）

〈二種〉　楷書は手本の見方が表面的なようで、筆遣いがよくない作品が多かった。臨書も行書らしい動きやリズムのない作品が多数。まず王羲之についての確かな知識が必要。（佐藤希雲）

かな

〈一種〉　高野切第三種の特徴をよくとらえ流れがよい作品が多くありました。ただ誤字に見える字が時々ありましたので、かな字典を必ず引く習慣をつけて臨書に取り組んで下さい。（京　絹子）

〈二種〉　関戸本古今集の臨書は太細の特徴をとらえよい作品が数多くありました。創作作品は墨量墨色潤渇がとても大切です。作品が立体的に見えるように心掛けて下さい。（京　絹子）

漢字条幅

〈一種〉　五字句を楷または行書で表現。墨量、筆勢のある作品は見応えがあります。落款も本文に合うように工夫してください。誤字作品が多少ありました。ご注意ください。（三浦鄭街）

〈二種〉　顔真卿の独特の書法は広く知られる有名なもの。入筆の力強さ、ふっくらとした線、向勢の結体、それらをまずしっかりと表現することが求められます。（西川翠嵐）

かな条幅

〈一種〉　「露」の大き過ぎや墨色の濃淡に欠ける作品を散見。用紙全体を把握し字配りに留意してバランスよく書き落款も作品の一部となるよう寄り添うように書きましょう。（勝山初美）

〈二種〉　俳句作品は表現が難しいと思います。墨量を調節し潤渇に注意しましょう。和歌作品は優れた作もありましたが文字が大き過ぎ、全体の調和に欠ける作もありました。（勝山初美）

ペン字

〈一種〉　じっくり落ちついて取り組んだ作品が少ないように見えた。1枚書いたら自分で朱を入れてみるのもよい練習になると思う。地道な繰り返しがやがて大きな実を結ぶ。（佐藤希雲）

〈二種〉　楷書は整った字形が多かった。行書は漢字、かなの調和と流れ過ぎない自然なリズムを心掛けたい。手書きの美しい文字は大切な文化です。用紙にも心配りを。（東福青篁）

「書道芸術」
特別昇段級試験
師範合格者

漢字　41名

谷秀　相澤　谷正
唯一　逢沢　唯一
紅瑤　赤羽根えり奈
秀苑　井出さくら
千葉　榎本　桃花
青蓮　大町　菜圓
もく　角　真由美
高井　春日　槙子
附中　金城　智子
恵泉　兼髙　春菜
縷縷　川原　白楓
吉月　黒岩　晴美
幸扇　佐久間史江
青蓮　佐々木藍水
　島田亮太朗
蘇我　杉原　美穂
江龍　杉本　春枝
桂月　鈴木　藤香
縷縷　染谷　和彦
千潟　高木　竹寿
尚楽　武内　葉子
高井　渡根木　鈴
文月　仲川　信夫
高井　中根　麻衣
縷縷　長島　紅藍
一閃　新谷　幸子
若美　久田　文子
八街　平野　夏翠
基峰　藤本　翠雲
田無　藤山美枝子
雲雀　前田　春梢
無門　桝見　香風
竹美　三本　叙碩
菊月　宮崎　英明
清史　矢野　桑生
附中　横倉　弥生
前橋　横堀　歩美
琇韻　吉川恵理子
恵泉　吉野一佐子
縷縷　渡辺　桧
　（50音順）
　渡辺　義也

かな条幅　10名

卯月　色川　穂麗
たか　梅津佳代子
正華　加瀬明日夏
森地　片桐　桃代
縷縷　日下　桐翠
清月　小林　緑
玉川　佐藤　綾奈
上泉　長沼えり子
華仙　前川　瑛仙
華仙　山本　美楓
　（50音順）

ペン字　20名

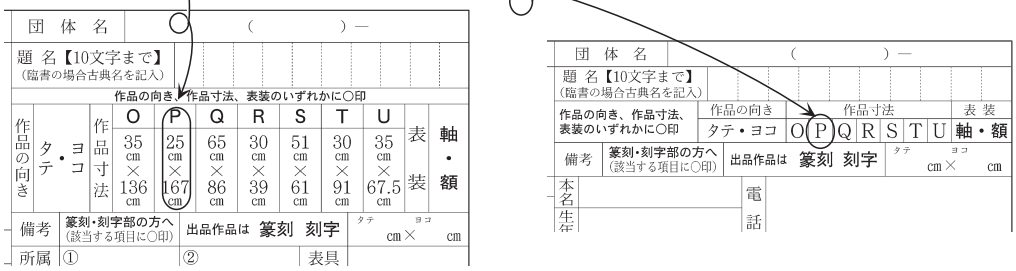
千苑　大島満知子
生大　太田　良子
大阪　大山こず恵
千苑　奥平　瑞穂
白鷺　乙幡　智美
大雲　小幡　華恵
旭老　加瀬　晴美
附中　金城　智子
菁湖　北嶋　菁湖
深大　倉澤絵美留
吉月　黒岩　晴美
洞書　酒井　花雪
幸扇　佐久間史江
若葉　下沢　博美
書游　庄司　咏艸
千潟　高木　竹寿
千苑　高橋可津代
こだ　立花　佳憲
玄象　堂園　慶子
田端　横井　康隆
　（50音順）

おめでとうございました

第80回記念書道芸術院展出品目録の訂正について

9月上旬に作品募集規定と出品目録を発送いたしました。その中の一般公募用の出品目録に訂正がございます。

作品寸法 P については、今回からなくなりましたので、訂正いたします。



※Pサイズについては出品できませんのでご注意願います。

競書違反作品の成績表掲載について

違反項目

1. 出品券なし ↓作品のバーコード出品券未添付
2. 月別出品券違反 ↓バーコード出品券への月別出品券未添付 及び過去の月別出品券の誤添付(コピー不可)
3. 落款なし ↓作品に落款なし(雅印のみ可)
4. 用紙違反 ↓規定サイズ以外の用紙使用 **※「ペン字」はハガキサイズ(14.8×10cm)を使用して下さい。**
5. 課題違反 ↓規定以外の課題、書体違反
6. 形式(縦・横)違反↓指定と異なる形式
7. 段級未記入 ↓バーコード出品券の段級未記入

違反作品は返却致しませんので、ご了承下さい。

第31回 一般部 学生部 併催

長野県現代書藝全国展

(部門) 漢字 かな 近代詩文書 少字数書 篆刻 刻字 前衛書

長野県県民芸術祭2026参加

2026 12.12(土)～12.13(日)

9時30分～17時 (13日15時まで)

◆ 長野県伊那文化会館
美術展示ホール・小ホール

伊那市西町5776 TEL 0265-73-8822

入場無料

主 催 長野県現代書藝協会
事務局 〒390-0871 長野県松本市桐3-7-5-2(若林士脩)
電話 080-3399-7603
お問い合わせ huanlu_zhang_1@yahoo.co.jp

共 催 長野県 長野県教育委員会 長野県芸術文化協会

後 援 信濃毎日新聞社 毎日新聞社 NHK長野放送局
一般社団法人 松本芸術文化協会
市民新聞グループ 長野日報社

ご高覧頂きたくご案内申し上げます。

書藝展ホームページ https://naganosyogei.jp

予告　2026・12月号（788）の「古典鑑賞」・「古筆鑑賞」の課題

（１月15日締切）

古典鑑賞　499

孔子廟堂碑（虞世南）③

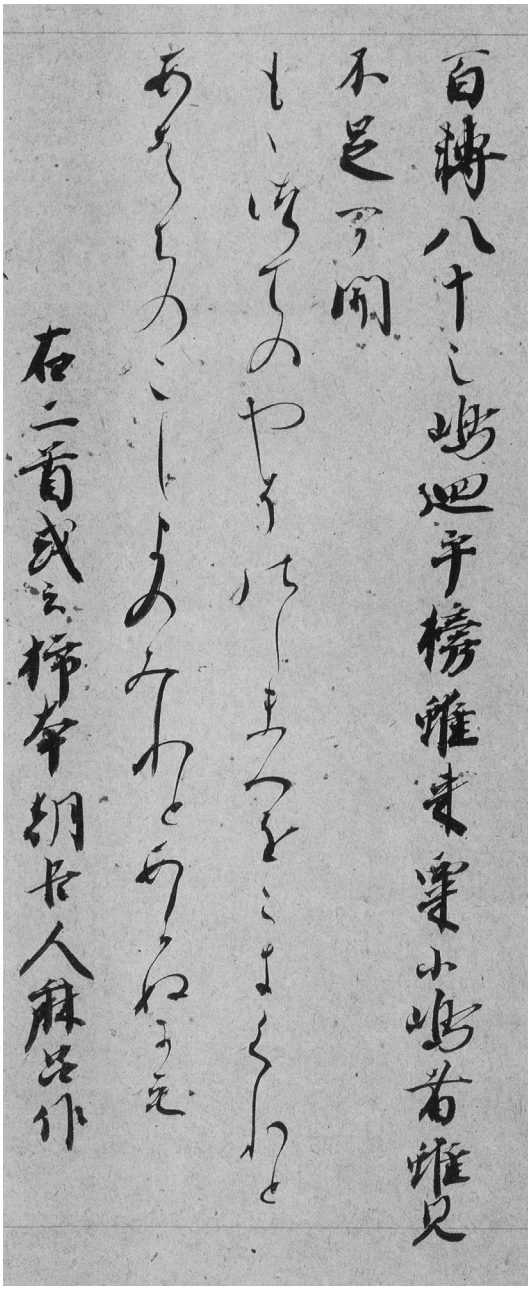


（掲載図版・70％に縮小。
原寸にするには143％拡大）

總翠成帷。清滌玄酒。／致敬於茲日。合舞釋／菜。無絕於終古。皇上

古筆鑑賞　273

藍紙本万葉集（伝 藤原公任筆）③



（掲載図版・70％に縮小。原寸にするには143％拡大）

〈よみ〉百転八十之嶋廻乎榜雖来粟小嶋者雖見／不足可聞／もゝづてのやそのしまへをこぎくれど／あはぢのこじまのみれどあかぬか（毛も）／右二首、或云、柿本朝臣人麻呂作。

第四回

吉祥かなの会書展

令和８年12月10日（木）～15日（火）

11：00～17：00（初日13:00 最終日16:00 終了）

武蔵野市立吉祥寺美術館市民ギャラリー

この度「第四回吉祥かなの会書展」を開催いたします
ご高覧賜りますようご案内申し上げます
尚　会場の都合上　ご生花などお心遣いのほどは
辞退させて頂きます

主宰　小島孝予

石島美恵子	永井則子	宮崎洋子
石森範子	二階のぶ子	山崎琴
小川栄子	畠山律子	山田純子
柏迫和子	早川和子	脇坂典子
川野已佐子	林令子	渡辺良子
助川きみ	古川雅子	
髙見いづみ	宮崎美江子	（50音順）

後援　武蔵野市　毎日新聞社　（一財）毎日書道会
（公財）書道芸術院　（公社）全日本書道連盟
かな書道作家協会　玉松会
連絡先　090-5567-6517　（永井則子）

第65回

黒潮書展

【前衛・創作・臨書】

併催 生誕100年記念 名久井裕三遺作展示

■ 会期・時間

令和8年11月27日(金)　10:00～17:00
28日(土)　10:00～17:00
29日(日)　10:00～15:00

■ 会場

八戸市美術館 ギャラリー1､2（八戸市番町10-4）

■ 後援

八戸市　(公財)書道芸術院　(一財)毎日書道会
㈱デーリー東北新聞社　㈱東奥日報社　東奥日報文化財団
青森朝日放送㈱

ご清鑑賜りたくご案内申し上げます

主催 黒潮書道会

黒潮書展事務局
〒039-2241　青森県八戸市市川町桔梗野上21-28
石田和子方　TEL 0178-28-5999

＊12月の月例競書の締切日は
12月10日(木)です。

「書道芸術」788号（12月号）の発送が12月４日㈮の予定ですので、最新の級の調査が間に合わない場合があると思います。この場合は、事務局で級位の方の昇級調査をいたします。**出品券に現在の級に加えて、赤で未調査とご記入**の上、作品をお送りください。

公益社団法人　全日本書道連盟

＊毎日書道展会員以上の方は、ぜひご加入ください。＜年会費 12,000円＞
＊毎日書道展会員以外の方でも本院会員ならば加入が可能ですので、院の事務局までご連絡ください。なお、個人でも加入は可能です。

※詳しくはホームページをご覧ください
ホームページはこちら☞http://shoren.jp/

▼検索バーに入力してチェック
全日本書道連盟　検索

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可
令和八年十月二十五日　印刷
令和八年十一月一日　発行
（毎月一回一日発行）　書道芸術　第七八七号

競書出品規定

※規定部・自由部・研究部は、月別出品券を貼ったバーコード出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※特別研究部は所定の出品券を、作品の右下にヤマトのりで貼る。

※半紙は縦使用に限る。

※落款（印のみも可）を入れる。

●出品資格　高校生以上

●月例競書作品出品の心得

1、**締切日必着厳守**

2、月別出品券を貼付していないバーコード出品券は認めない

3、月別出品券のコピーは不可

4、㈠**初めて**出品のときは「**10級**」と書く

㈡「課題違反」・「落款なし」等の違反作品は審査対象外とし、**違反作品として氏名を掲載します。**

※▲印段級誤記入

※△印作品審査後着

＊段級欄に記入する数字は、級位は算用数字1、2、3…段位は漢数字　初、二、三…で書いてください。

＊級位の方は、出品する月の本誌（最新号）で成績を調査確認の上、級を記入してください。確認できないときは、**現在級を書き「未調査」**と明記してください。

●規定部（自分の段・級で出品）

部門	字	漢	かな		漢字条幅		かな条幅	ペン字
段級位	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	初段以上	秀級以下	10師〜級範	10師〜級範
用紙	半紙	半紙	半紙	半紙たて½	半切	半切	半切	はがきサイズ
書体・内容	創作（書体自由）	創作（楷書）	創作	臨書	創作（書体自由）	創作（書体自由）	創作	書体自由

・かな、かな条幅部門は料紙使用可。

●自由部（段、級によらないもの）

部門	前衛書	現代詩文書	実用書
用紙	半紙	半紙	左記
内容	創作	創作	書体自由

〈実用書部門・出品規定〉

○用紙　半紙横½（24.5×16.5㎝）、B5コピー用紙（26×18.1㎝）も可。

○課題　掲載語句を書く。

○小筆、筆ペン、サインペンも可。

●特別研究部

・大作または小品のどちらかに1点出品する。

・詳細は出品票の掲載ページを参照のこと。

●研究部（掲載課題の臨書）

部門	用紙	内容
漢字研究	半紙	文字数自由
かな研究	半紙	歌1首以上を書く、全文も可

・掲載部分以外の箇所は不可。

・かな研究部門は料紙使用可。料紙貼りつけも可。

☆審査会員の部について

・「漢字部門初段以上」と「かな部門初段以上」に審査会員のみが出品できる部を設ける。

・バーコード出品券の段級欄に「審査会員」と記入する。

・通常の競書との重複出品は不可。

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は

〒101-0031
東京都千代田区
東神田1―16―7
東神田プラザビル3階
公益財団法人 書道芸術院
電話（03）3862―1954
FAX（03）3862―1957

ご連絡等は**月曜日～金曜日　10時～16時**の間にお願いいたします。（土・日・祝日は休み）

送料

1か月の購読部数が1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は送料免除

令和八年十月二十五日印刷
令和八年十一月一日発行
定価　1部　七五〇円
編集兼発行人　下谷洋子
データ処理　株式会社リンクス
印刷　小沢写真印刷株式会社
発行所　公益財団法人 書道芸術院
〒101-0031
東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
電話（03）3862-1954
FAX（03）3862-1957
振替　00150-4-135058
ホームページアドレス　http://www.lincs.co.jp/shogei/